

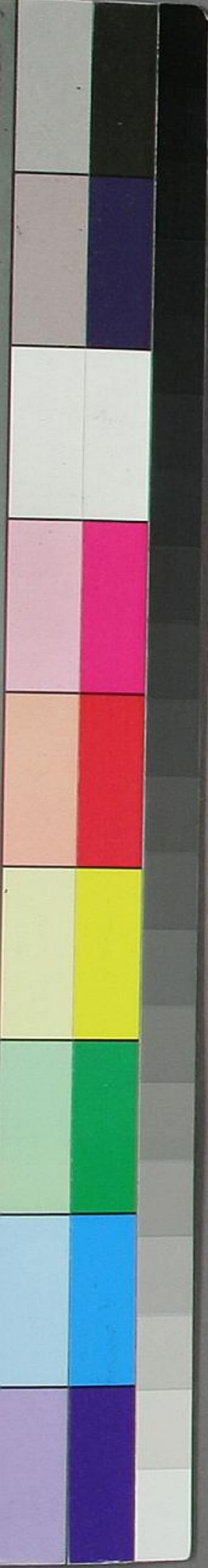
繪首
入書

世界都路

歐羅巴洲

三

柳田文庫
文庫11
A1838
3

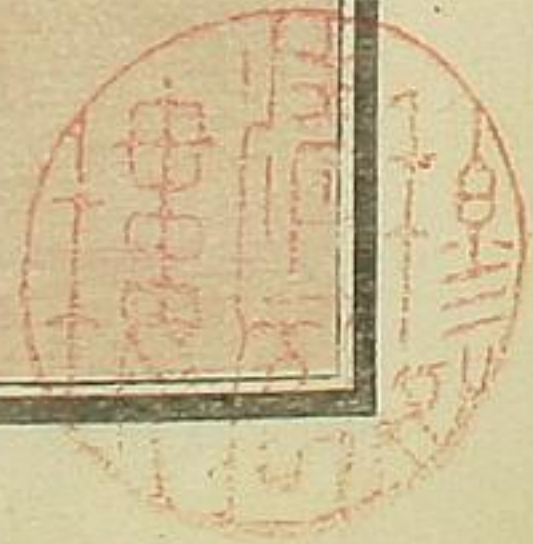


歐羅巴洲全圖

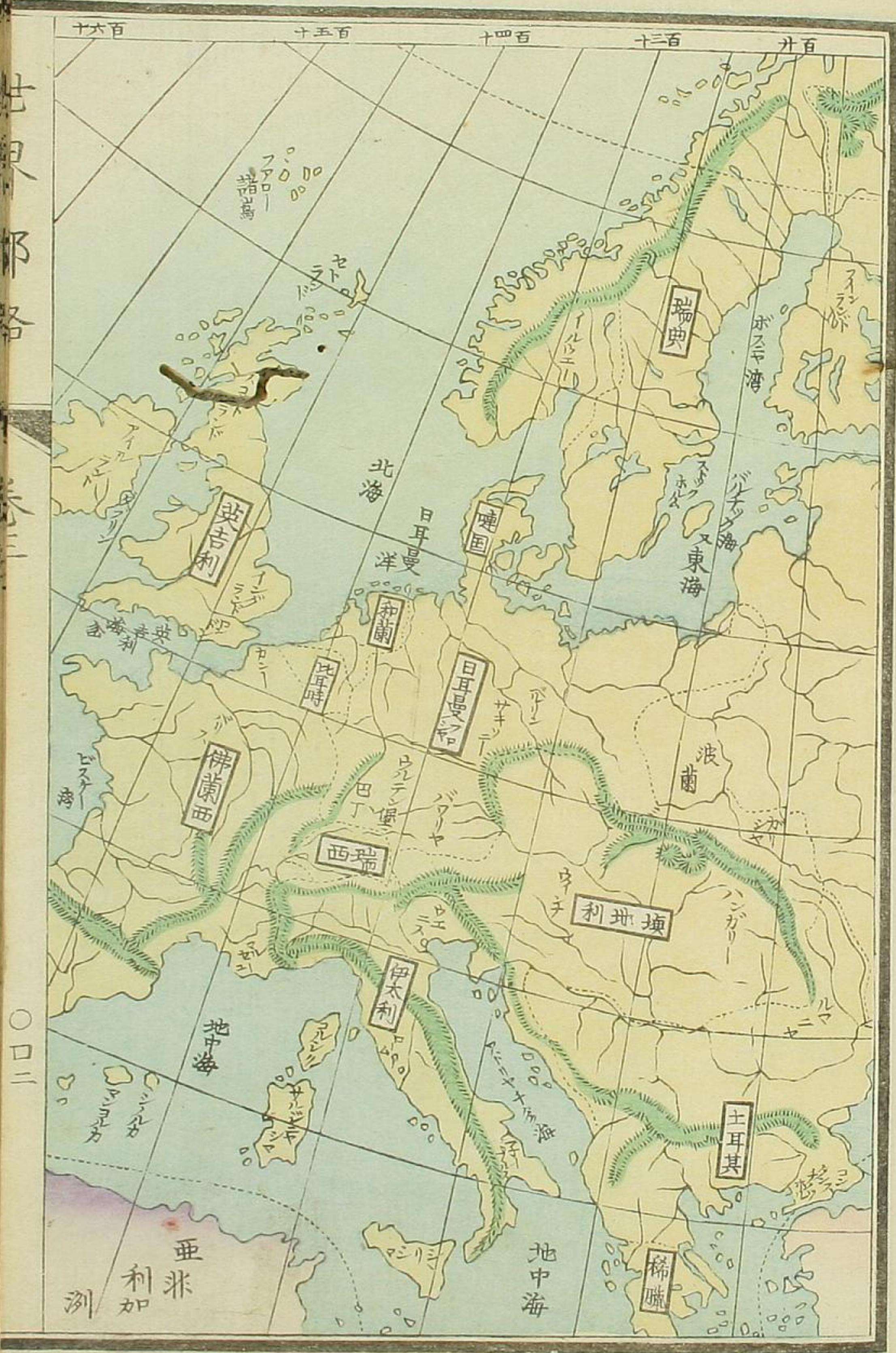
文庫11
A/838
3

柳田白文庫

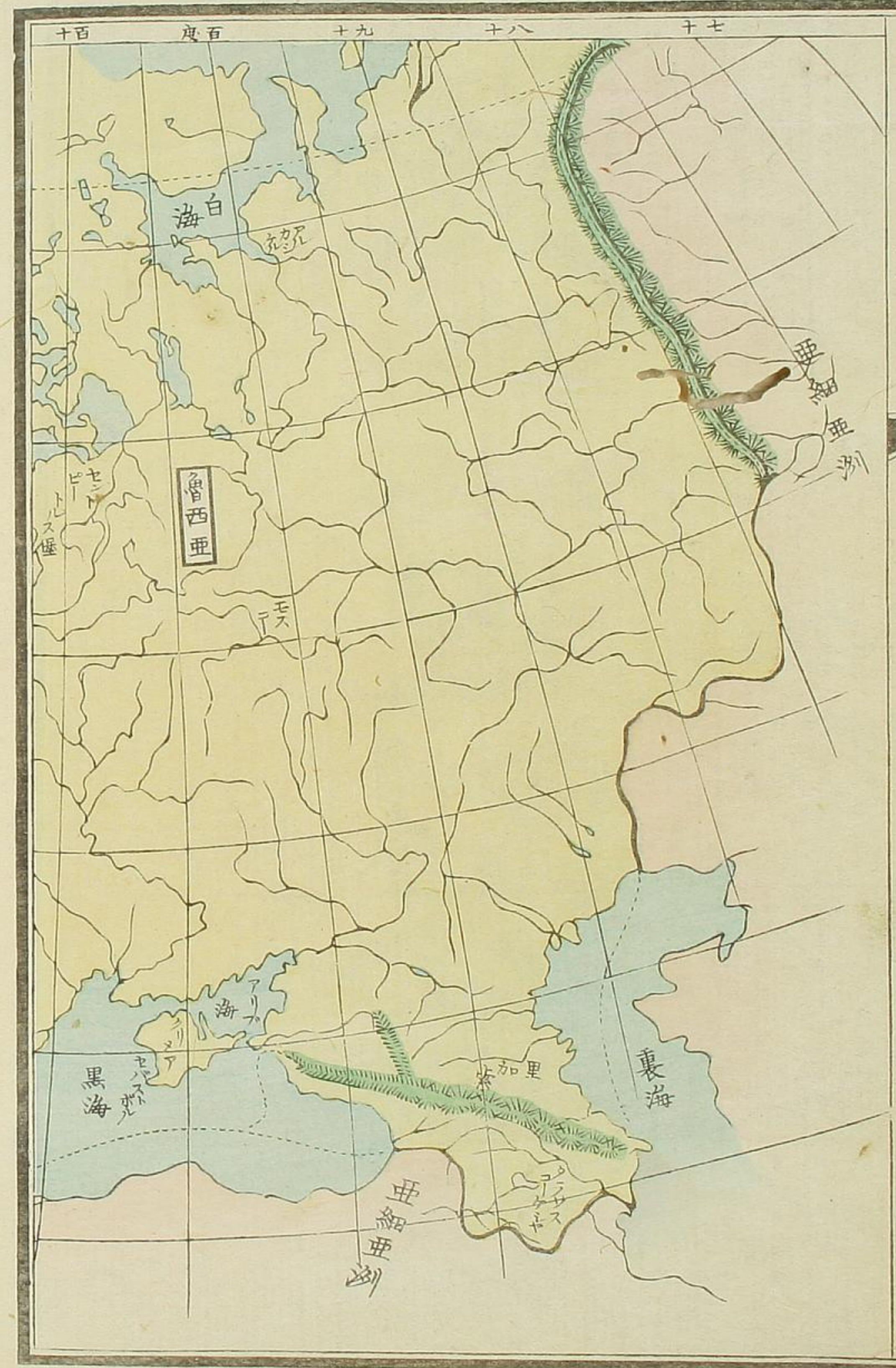
48-7747

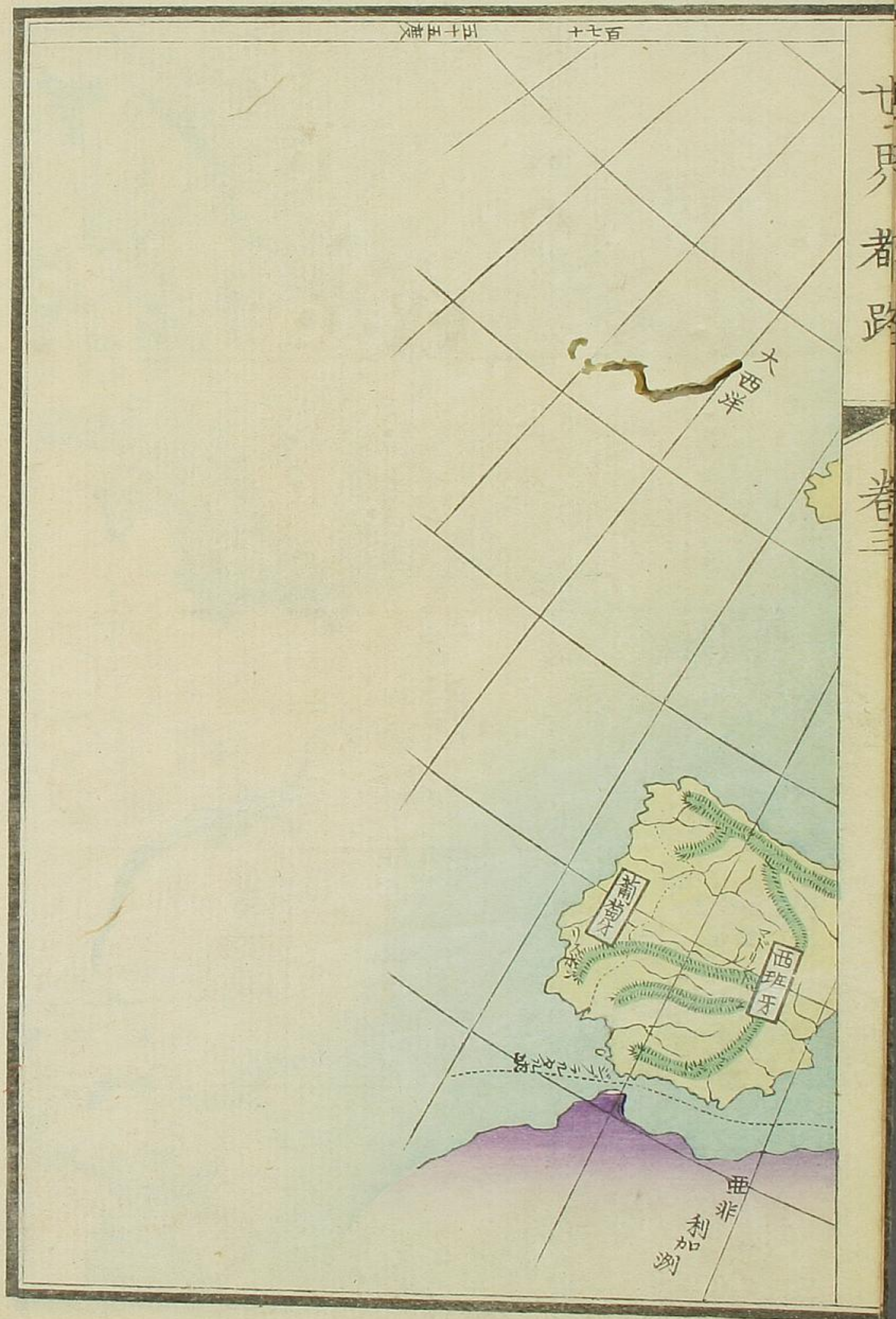


〇四



〇〇二





○歐羅巴洲の五大洲中ヲ除クの最も小なる者一ト世畧陸地の十四分一ト居るより長サ東北より西南小算へて大略千三百九十里小過ぎ其の中魯西亜の領分小属する者半小過々然と共

歐羅巴洲

文明の域と世界に

峯々如新西洋諸島大

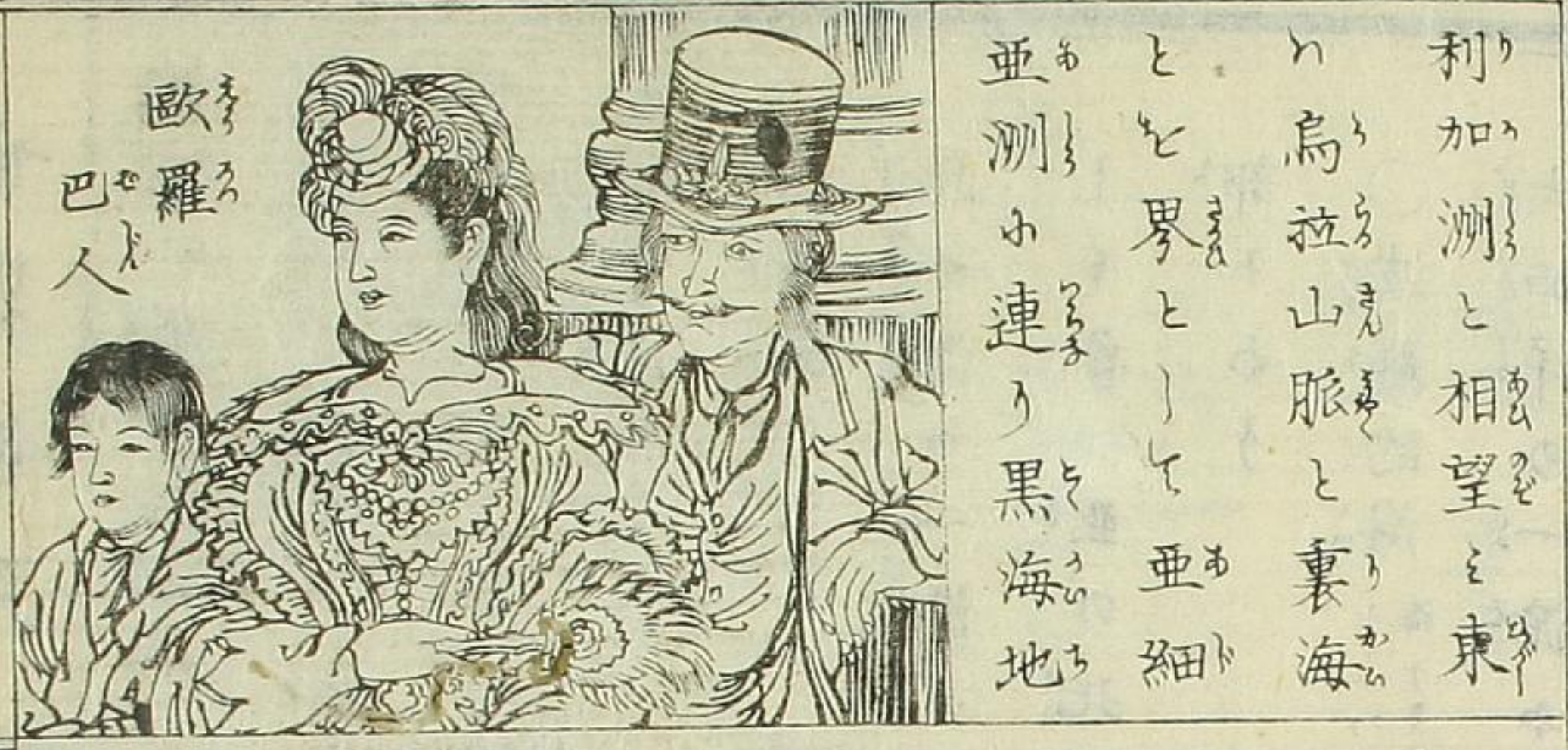
小形おあぐさる勢ひ

如盛るる衰ふ成行也



人口ノ二億六千五
 百四十一萬餘ハシ
 全世界の人口ハシ
 分の一を有ハシ也
 調密ハシより北の方ハシ
 北氷洋と遠ハシ西ハシ
 大西洋の面ハシ南ハシ
 地中海の濱ハシ半ハシ
 島突出ハシ日巴拉大
 の海峡を隔ハシて亞非

浮世ウキヨ列レツ島シマ帯オビ系ケイ
 東亞細亞トウアシヤ小競コケイ系ケイ
 禮レイ拜バイ并ヘイ化カ全ゼン系ケイ歐羅オウロ
 巴東亞細亞ハトウアシヤ小連コレン系ケイ
 南ナン行コウ心シン地チ中チュウ海カイ
 巴東亞細亞ハトウアシヤ小連コレン系ケイ
 禮レイ拜バイ并ヘイ化カ全ゼン系ケイ歐羅オウロ



利加洲と相望リカシュトソウボウと東トウ
 烏拉山脈と裏海ウラヤマツクミ
 とを界カキとして亞細アシヤ
 洲シュ小連コレン黒海地クワクワチ
 亞非利加洲アフリカ小連コレン系ケイ
 西の限セキの亞太脈海アタツクミ
 早九國サイククニ兄弟ケイテイ系ケイ指サシ
 折セる魚イサの西亞の境系サイアノケイ
 〇二

中海の濱を大洲中
内海多し許多の称
呼を以て之を區別
を則ち左あり

○白海トパイ

北氷洋の一派也

して魯西亞の北

部あり

○波羅的海ニハ

大西洋の一派也

して瑞典と魯西

亞の間をいふ

○地中海アシトレニ

當洲の西南に接

せ世界中内海の

大いある者あり

て表面十四万方

里あり過ると云ふ

○亞得亞海

地中海の一派也

歐洲二部のその一部

中北亞細亞より蔓延

て地球をなす始也

此地は係る里方

の。大凡八萬八千餘

人口七千四百萬中

最大鎮四十箇所大

都彼得堡と伯德

禄帝といへる君新小

建る首府とて名を

して以大利の東
中回ると云ふ

○馬々拉海

地中海と黒海の

間といふ

○黒海シレツキ

亜細亞洲に接し

魯西亞澳地利土

耳其の濱を

○北海シールス

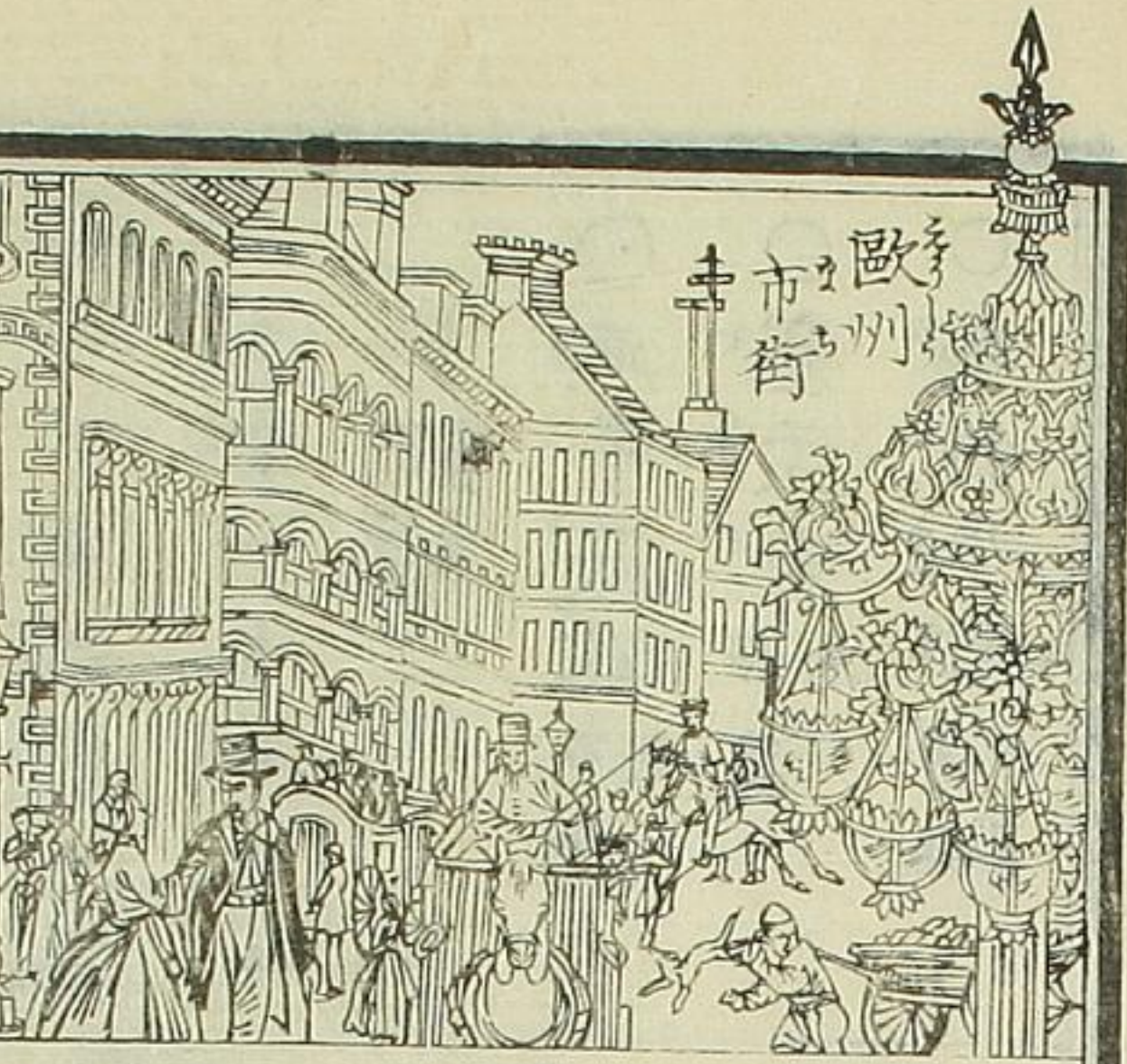
酷き土地ありて民

の稠りの立登り。そのま

を移すむおと能く

順多記大都會。東

南より逆と氣車往。



英吉利と荷蘭那

威の間を名く

○日耳曼洋

北海の南部を云ふ

道程一百七十里一日小

達を馬斯高の島國

旧都の一大府。新都小

法を繁華ありて

元々ありて二百年殺

全洲山脈

○巴幹部中其

○亞爾伯部中西

全洲第一の高

山

ふしと其最も高

き者一千五百七

十餘丈

○亞卑尼奴利太

○塞孟士佛蘭

○比利牛斯佛班

伐虜暴徒風俗を洗

ひ流して今日の政道

軍備兵をあるに由を

するその外を攻め西洋

諸島のところからぞ世

○塞拉尼窩大部南

○加白的北部より

○斯干的尼威典瑞

○烏拉南東ヨリ

○高加索小連ス

人種一般高加索種

小属と雖も其三

分部の一角蒙古種

小属と人民あり

教法の全洲の人民

界の國も立双頭

も就其に旗志を地

球を覆ふ勢ひの

風も靡く者多し南

子回る希獵國それ

一般に耶蘇教を奉ぜり偶他教を奉ぜり者百分の四あり
 ○耶蘇教三種あり此教の其開祖以來教導の法式より數百年間既小宗徒黨を為との勢以て生ト八百餘年を経ト東西二派に分

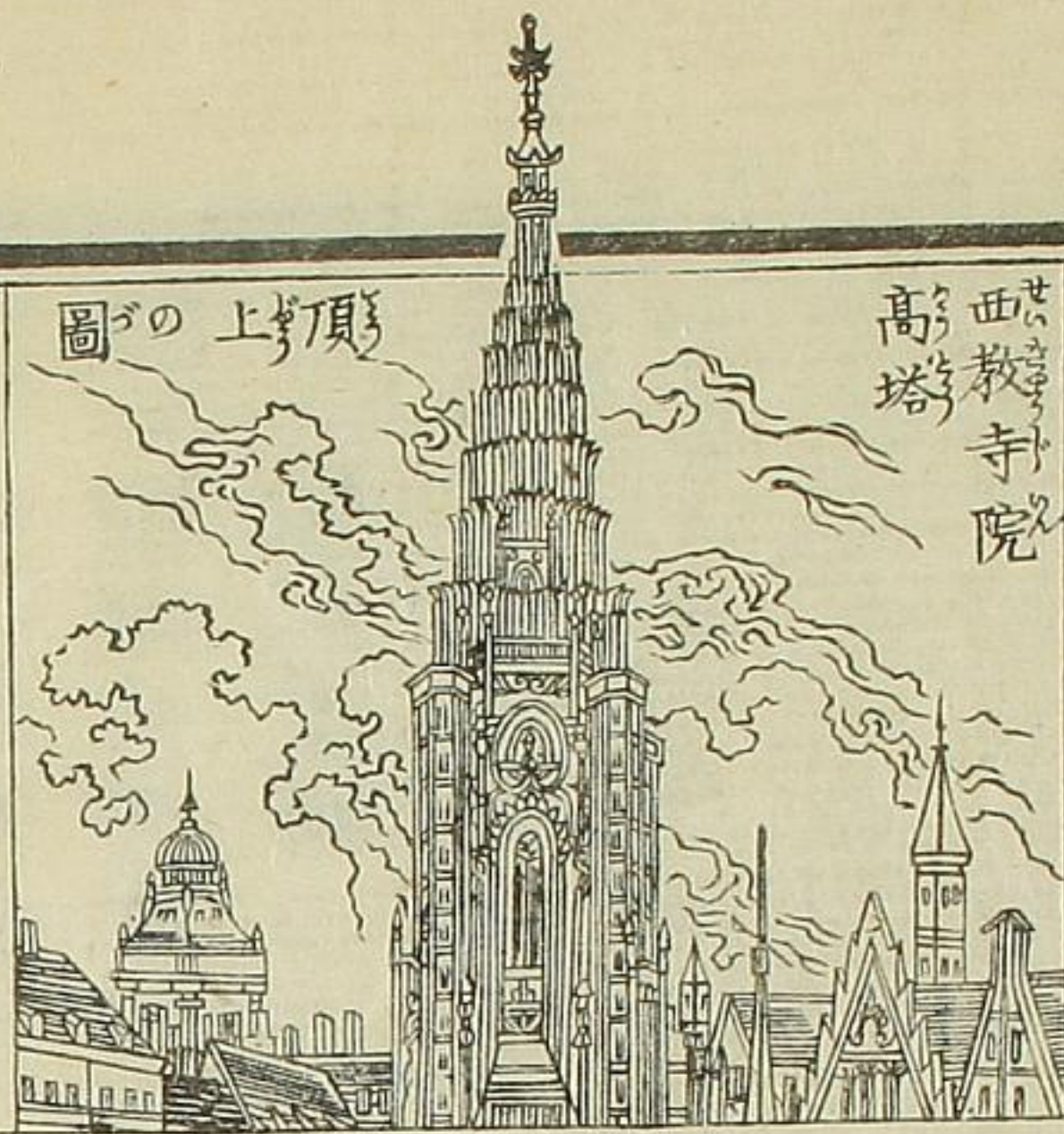
都ある。雅典より。昔盛
 代の嬰孩
 廣き田領の如く隣
 及め土耳其其亞
 細亞歐州境目の左

三百五十餘年前の西部又二ツに分る即ち舊新の二派と
 ○耶蘇舊教
 又天主教とも名く南部の盛なりと中典の雜色り又南亞米利加洲の蔓延り往時日本へ來りしは又是あり最も

有る跨る帝國の二は
 都と云へたる。孔士旦
 城府下の人民八十萬
 華美を極めし王
 宮に内ふ數百餘員

弊害多き宗門あり
と云ふ

西教寺院
高塔



○耶蘇新教

英國及び日耳曼列

女を置き、桃李の多

の姍姍を媚を厭

倚はふをむ、并化の

道暗き、君は心随

ひく、擅ある國政の暴

國小寂り盛なり

和蘭瑞西等此宗門

小歸依し又北亞米

利加洲中盛あり

○希臘教

魯西亞部中一般盛

小行くと又土耳其

希臘の人民此宗派

小属する者多し

○猶太教

き浪風たちやあらふ。
弘きく安き期もなほ。
奥地利土耳其より水
手界ひく正統の帝
位のま著めく古く

此宗門耶蘇教先
 だもて往時猶太國國
 洲の細内行は國國
 亡びて其人民歐羅羅
 巴亞米利加來り
 住ひより今此
 地此教と奉ぞる
 あり此他耶蘇教
 の種属一て宗名
 と異一全洲各國

獨逸と稱るた文物
 禮樂善人少て數十能
 王侯朝拜の袖を列す
 冠を傾く運ば疾く
 風消るまたたく燈火

有り
 行こる者許多

○回教マホムカ
 此教ハ細亞支
 那及び印度より西に
 の諸國ハ盛あり故に
 小亞細亞の西を回る
 部の國と稱せり
 歐土ハてハ土耳其
 の人民此教を奉ぞ

の油と増え近く其を
 威勢輝く吉事
 丁子を各國とある
 ぶる百貨物を互に市に
 の利益多くを都に

るの土耳其の其
人種蒙古種と高加
索の兩種混交し又
其版圖も亞細亞と
歐羅巴の兩洲に接
し中間に在るが故
に教法も其中間
に在る所の回教を奉
むるあるべし
○土全洲各國

府維也納の城内を家
居る層々四層樓五
層樓まで築き上り一
家上下の別位居女を
寵を多しきもあは
ぬ

○魯西亞ス
政體君主專治
魯西亞往古の蠻野
の民族よりて原由
詳らうからむ紀元
八百年代の央より至
り連國の人コリグ
ル者諸方を侵し
掠めて當國の大半
を押領したり紀元

を精ひく。花を多し
の習ひあり。狩も多し
北の方文武を多し
普魯士國治る層々
礼を忘るべきなる上下の

古史部各

卷三

八百八十三年「オレ
 びと云る人「コリ
 びと殺して其國を奪
 ひ「コリびの子「イゴ
 此位を嗣ぎたるゆ
 其弟「ウラヂと此
 ら者兄を殺して國
 位ゆ即き布臘帝弟
 二世「コシ此の妹と
 娶り始て那蘇の法

心一致しく。常に百戦
 百勝の智略を盡む
 腹裏近以開く兵端
 小填地利と戦ひく。七
 日。東のるる勝利を

教を奉りてより國
 カ次第に強盛を致
 一其公と大公と稱
 せり十五五年「ラ
 子之此死して後の
 其子互ひ小位を争
 ひ遂に一國の内亂
 と生じ干戈止む時
 かく二百年の星霜
 と經り此時に當

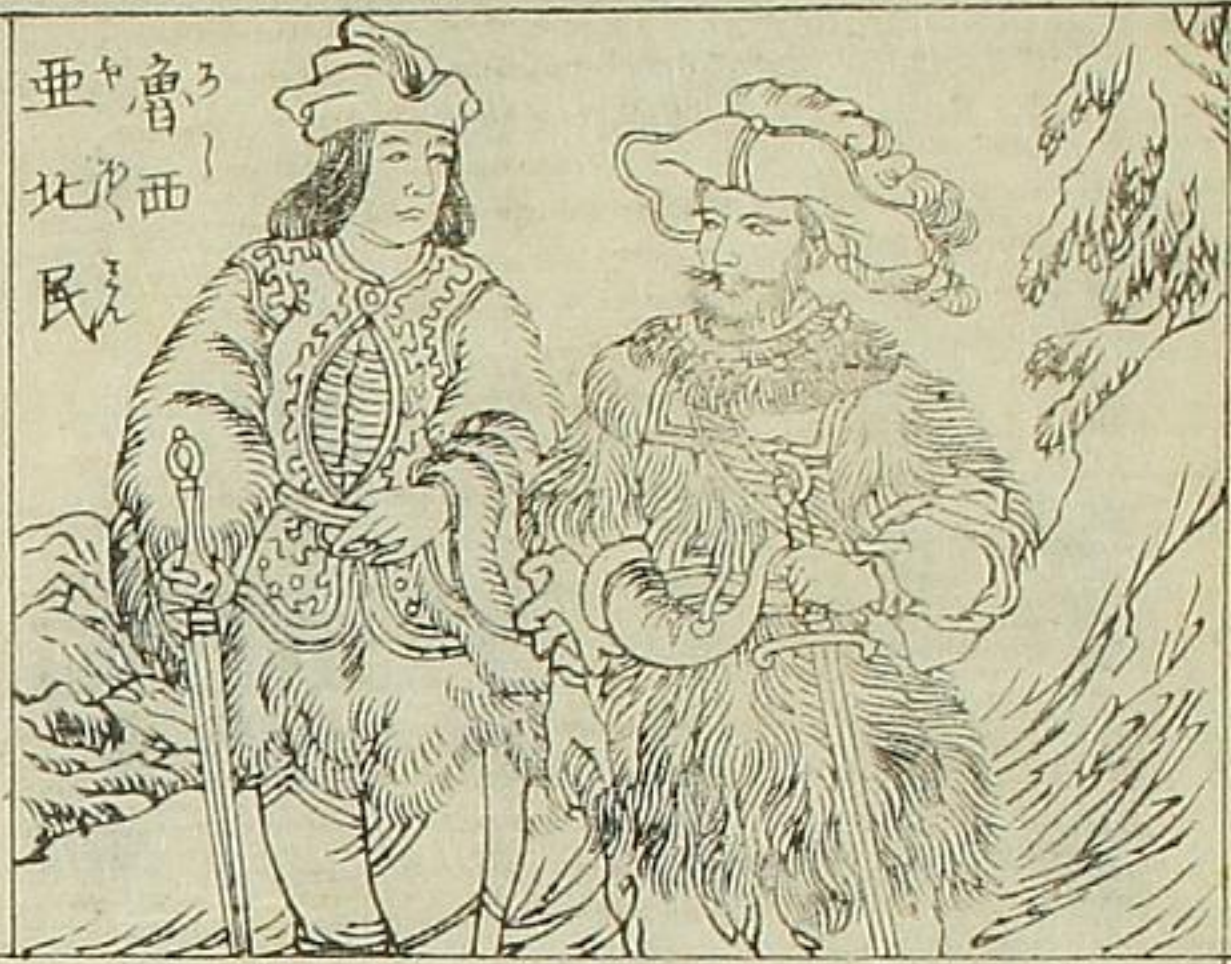
得るる教箇國を併
 せし。のちその後の
 明治三年午の秋雷
 名東く佛を東西
 兵を接へる大勝利

りて亜細亞の蒙古
 小侵こそ其苛政の
 窮めらるる事九二
 百五十年其後蒙古
 の種族の内乱を生
 トモンジスカンの
 外孫チモビラン
 なる者兵を擧て諸
 方と征し遂に魯西
 亜の在る所の蒙古

佛の帝を生捕りて
 理斯都城を陥し勢
 ひしを挽き海を倒
 たり威をよめ道
 傍日耳曼列國は

と攻て之を勝り蒙
 古の威勢復び振
 る千四百六十二年
 モスコの府の君弟
 三世イワン位に即
 てより漸く強盛の
 勢ひをかし蒙古と
 戦ひて屢勝ち千四
 百八十年に至つて
 尽く之を放逐し蒙

は就し大事業あり
 歐洲を統一し強ふあり
 と怖るべき又むは款
 ちるより都府比



古の跡魯の境内ふ
絶より
○第三世イワン
○ワシリ
イワンの
太子

耳林の人能教七十万
のよふく海陸軍能
数を増し学校法院
達ありび兵士調練急
らま生流の従事勉

○第四世イワン
幼冲くして才幹
あり第三世の業
と継ぎ近傍の土
地と併せ名聲日
々高し此時亞
細亞北方シベリ
ヤの地と版圖ふ
併せカザルの尊
号と定めり

強り各前をありそ
ま此地續きの日耳曼
各列侯自ら共和
易所謂獨逸連合の
数を合さし小國法

○フエードルイワンの
 此君暗弱小一々
 國事不堪へを千
 五百九十八年死
 して子あり可り
 クの後胤男子の
 血統是れ絶たり
 始めロリクの家
 と起してより年
 と終ること七百

小部は過半普魯
 社領下は居る多國
 民は男女の別ちなく文
 の多きびを知らざる
 千人中少許を知らざる

余年世を累ること
 と五十六代
 ○ミカエルロマ
 魯人謀つて此君
 と立るロマノ
 の家系ハ女子の
 血統を以て國祖
 ロリクの後胤ハ
 係り即ち現今の
 魯西亜帝の宗祖

文字を書きし後
 千人中五六十能耕
 して兵精し。その行
 の餘力少くハハの調への
 琴は曲歌舞水原を

あり

○アレキス太ロマノイ

○フールドルのアレキス

○ペイトル一世帝

千六百七十二年

フールドル死し

子あり遺命し

其弟ペイトルハ

位を傳へり其性

猛烈ととも天

この好めどもえ懶惰てくま

もの者あり列産共和の

國あり都府あり

ど大木の書院合せ

五十箇所城内苑の

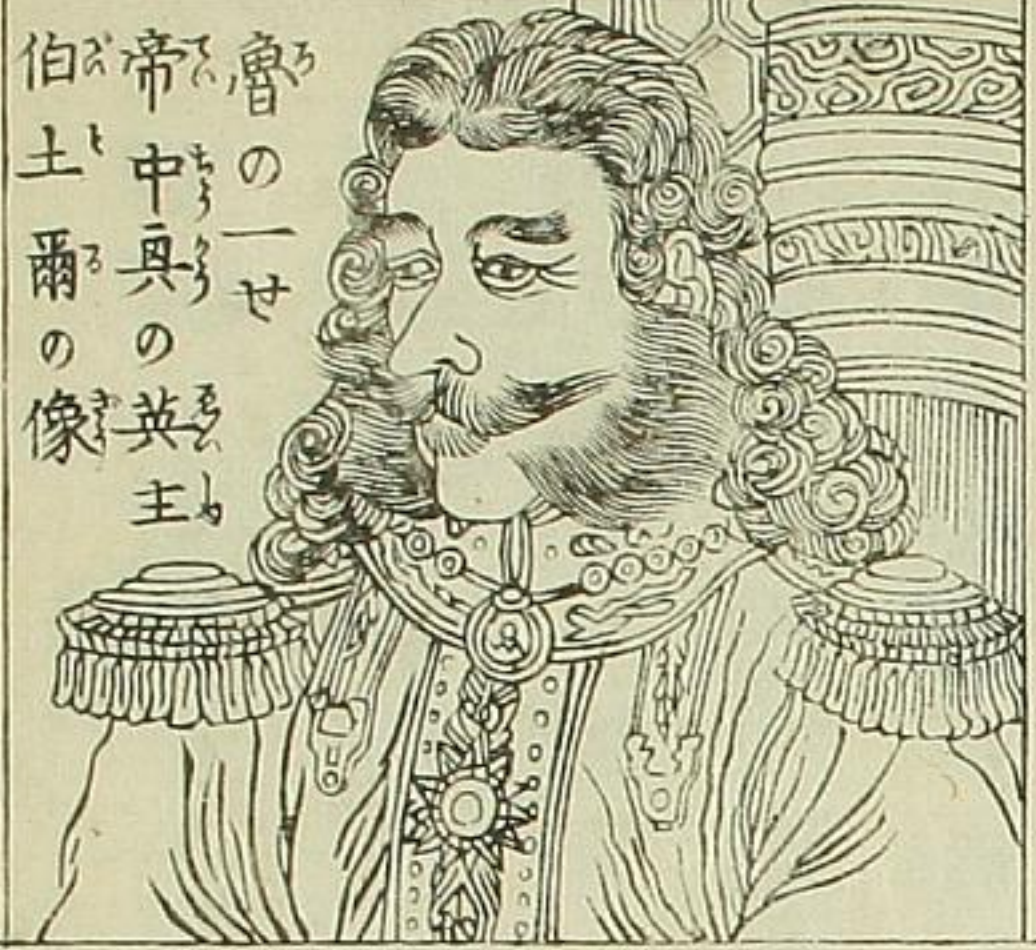
果敢断の英才と

抱きて一時小國

内の舊弊と改革

海陸軍と全備

交易を弘く



魯の一世
帝中興の英王
伯士爾の像

室多し數十萬卷室

あり蔵め於る諸雜

書を讀んといふ何

人小拘らざりて由

ハレ諸事より國の捉

文学を隆盛こつせいし
 國富と兵強へいじやうく其
 版圖現今の廣大
 小至るも悉く皆
 此帝の基業きぎやう小因
 てあり
 ○カタリナ女帝
 先帝の后あり太
 子アレキシアレキサンダー謀反
 小聖せらるる千七

あり。
 西小界さいせうがいて佛ぶつ系けい系けい西さい。
 中具ちゆうぐ三世の帝てい也。
 卷まきも高たかき拿破倫なほれん。
 一世いつせいに西さい朝てう業ぎやう更さら次つぎく。

百十八年既すで小獄
 中ちゆう死ししと
 以もつ即位けいせり是
 先帝の譲ゆづり野の小
 あり先帝崩ゆがせり
 の後のち其その余あま業わざを継つ
 ぎ益えき国事こくじを理り
 海陸軍かいりくぐんを盛大せうだい小
 一ひと各國こくごと和わしと
 貿易くわいぎを盛さかん小

大政たいせい復古ふこ創建くわんけんの欲よくも
 軍ぐんも文ぶんの眼がんも
 子こも歐おう羅ら巴ぱ語ごを
 奪うばふ志こころざし熾さかり
 盛さかる巴里ぱり斯府すふハ十
 ○十五

○第二世ペイトル
ペイトル帝の孫
幼冲して痘瘡を
罹り死す

○アンナ女帝
第一世ペイトル
帝の異母兄「イワ
シ」の女あり此時
亞細亞の版圖次
第に蚕食す

○第五世イワン帝
先帝の姪孫
王統の五世私系
の七世あり
○エリサベス女帝
第一世ペイトル
の女あり幼帝と
廢し自立して帝
と稱す此時諸府
に大學校と設て

六府の首府ありて壯
麗な花崗の宮あり

文あり武ある諸省校

城内帝居の結構あり

支那秦の阿房宮四

季に花壇あり咲かす

葦原の園あり馥郁と

風待友の木下新吹井

能水の立登り雲呼

就乃昇天し斯やを

文化次第小隆盛
不赴けり

○第三世ペイトル

○第二世カタリナ

三世ペイトルの

皇妃ホク位不

即くカタリナ君

夫と毒殺するの

大罪を犯るとい

へども治国の才

仰ぐ勢ひの。惑さるる。慕

まて。普魯士を討亡

さん。狗巧く。以て西洋

一千七百七十の年。此

秋。より。此事を言

ありて。此時文武
益々整ひ。歐洲大
國の列。ふ加。そり
各國。是と。恐。まご
る者。あ

○第一世ポール

先帝の太子即位

の際。佛蘭西。騷乱

の時。あ。當り。千七

百九十九年。魯國

無き。喧嘩。仕掛の。儀

論より。大戦争を。う。ち

并。き。普魯社。日耳曼

全國。と。兵を。交。へ

後悔。い。あ。り。ま。る

○アレキサンドル
先帝の太子あり
千八百十二年佛
蘭西一世帝ナポ
レオン五十萬の
大軍を卒ひて其

○第一世ニコラー
ス先帝の弟あり
千八百五十三年
弟七月魯の大軍

足並の私を軍の級お
り果る帝を捕ま
終ふ己理斯の筑城も
兵を和睦の償ひし
領地を裂き西に

○第一世ニコラー
ス先帝の弟あり
千八百五十三年
弟七月魯の大軍

○第一世ニコラー
ス先帝の弟あり
千八百五十三年
弟七月魯の大軍

らに数多の金を歌
國は後々共和政治
弱昇る旭も黄昏ふ
沈む波間の水は泡
浮びて出る曙は待宵

世界新略

卷三

土耳其を攻むる
不英佛の西政府
その禍は自國不
及んことを怖と
す土其其を助け

女帝
ペートル帝后
カタリナ



の夢や踏ぐは奔佛
日耳曼列國は中
挟する瑞西小国あ
共和政民小教の道届
き國報ゆる生

数年の戦争と成
たり是を世にセ
バストボ止の戦
争と云ふ
○第二世アレキ帝
千八百五十六年
第三月先帝死し
太子位に即き始
め英佛土の三
國と和を結び千

この急を一年を
経る候に少敵とて
侮らざるは怪志あざ
る大國は目少ん
作する智仁勇義備

八百五十八年より以降二年の内、小満洲の地を取り、黒龍江の近傍、及魯の版圖、ハ歸し、
 ○土耳其古トルコ曼政體君主專治、土耳其の本靴鞣種、ハ、阿多曼人種

の徳と知しきなり。
 比耳尼都西ふんて、南の方、伊右里の國、の地勢の細長く九部に分ち、少のそは

と云ふ回部の大國、ハ、其地西中東の三土、ハ、分つ西土、ハ、歐羅巴界内、ハ、中土、東土、ハ、亜細亞界内、ハ、在り、古時、ハ、皆羅馬の東境、ハ、土耳其人古の今の、伊草の地、ハ、在り、回教と奉じて展居と

一部ある羅馬領、古教主法王の自主の、とく名を、近、領地、衰へ、三百二十、寺院、盡く破さる、

西小轉ト今の中土
 小居る其後種族漸
 く繁盛ト千二百
 九十九年其酋長阿
 多曼兵を殺して買
 諾回國を攻奪ひて
 其國を阿多曼スレ
 イキと云ふとの孫
 默拉徳の代小至り
 日益強盛ト現

ををひ生のき刺き傾こきこてこ小蟹こがみ
 の網あみをむ結むぶる結縁けつえん結結
 聖伯多祿せいとく殿堂でんどうも美び
 西せい庶しよ光くわう彩さい觀くわんるる者もの純じゆん
 目めを射やるるむむららるるその

今の東土の諸部を
 得り次を近傍を
 盤食を佛国日耳曼
 嘗て兵六万を以て
 攻る小皆利を失ふ
 て去る千三百年間
 土王海峽を渡りて
 東羅馬を伐つ小敵
 の一將戰場小卧し
 土王小遊づくを計

他の名所なごころ聖場せいじやう者國ものくに
 此中こちゆうに勝かちききてて氣候きこう
 よく歐羅巴おうらふ洲しゆう才さい可か
 樂らく土どと傳つたふふ古事こじ純じゆん
 今いまよりより歲さいをを沙茅尼さぼうに

り起て短刀をもて
 王の中心を刺し其
 子巴牙骨海を渡り
 て仇を復し一万人
 と虜としを尽く之
 と殺す其後蒙古來
 りて侵す小土軍敗
 色く巴牙骨虜とあ
 る後小摩拉多なる
 者復奮ひ起りて東

亞三百七十餘年前
 亞美利加洲を以て
 する可倫波といふ人
 誕生乃地は古路あり
 首府大城の佛羅



羅馬境土過半を侵
 其子馬何美徳嗣
 せ右梟雄ん千四百
 五十二年東羅馬と
 滅しを君士但丁城

稜薩羅馬あつて都
 あり。全國南面地中海
 海に浮ぶる大島の沙
 第尼亞亞島すれは次
 可身西加路の佛羅乃

と取り國の大都會
 と一東中西の三土
 遂に全く統轄し歸
 其の後幅員の廣さ
 幾羅馬全國の盛ん
 あふ小比とべし其
 兵と用ゆる年屠戮
 殘虐にして刑威を
 尚に賦税の取立酷
 一き小過さう故あ

近世得たる地あり。
 彼世帝拿破倫誕
 生地と名を高くし。
 可身西亦よりも方角
 譯字に通ふ西班牙併

千五百二十余年後
 の嗣王多く暗昧の
 君ありて暴政甚し
 きあより屬國反さ
 内乱屢生せ塞黎慕
 王位と嗣ぐお至り
 千八百三年始め
 巴札の叛兵と戦ひ
 了勝り舊領と復す
 と金に幾程もあく

に隣りし大國の
 象を高くし
 風を高くし
 内小部は馬德里地
 城内極めて廣く好

巴札又叛く小より
 塞黎慕王親征して
 流失不中りて死を
 此頃南境の希獵土
 國不反きて獨立せ
 り益一當國衰ふと
 と巴不百餘年北隣
 魯西亞の為不攻伐
 ること毎戦幸ひ
 不英佛の救助不よ

王宮の外目を留く。
 銀多き物とあつ季
 より好むる葡萄酒の鈴
 生り善く争ふむの
 里あり之を世界あり

りて其國を存する
 を得たり
 ○ 塙地利又東國
 政體君民共治
 歐洲の五大國の一
 あり古く獨逸又日
 耳曼と總名を此地
 往古西亞諸力加
 巴訥尼亞等の國不
 して羅馬之を征服

名は國の控へ未終よ。
 此を慚る人ごと後叙
 寐衣文々々至おひ
 常り馬駟牛闘せ。
 琴三弦や舞踊り浮

以後北狄の據所と
 あり紀元八百年
 間佛蘭西其地を取
 て別部とて千二百
 七十三年日耳曼各
 部羅爾德福一世と
 推立て王とて阿爾
 麥王小至り匈牙利
 女王を嫁り國を合
 して數千里を益し

たる藝より身をさ
 きて國事文武に
 學問を勤る者の稀
 ありて其の衰微を
 近問ある似るは域

遂小大國とある千
 五百十九年國內乱
 る時西班牙王查
 理第五日耳曼諸部
 の招き小依りて此
 土小來りて日耳曼
 王より佛國來つて
 攻る小王戦ひて之
 と破り佛王を禽し
 佛人金と以て之を

の葡萄酒首府カス
 本も王城といふに甲
 斐なき人出のむ
 勤るは航海の道
 進よるは後戻りなき

と贖ふが故小乃ち
 放ち還せり查理第
 五段し其弟位と嗣
 き以太里の北境と
 併せ羅馬城と陥入
 千七百年日耳曼諸
 部皆自立して王と
 稱し此小従り當國
 奧地利亞と稱して
 復日耳曼と稱せど

の船は故稱し小蒸氣
 車をともて終て家
 土地の名産は葡萄酒
 小酔く眠るは夢心
 おより害く大炮の音



○ 羅爾徳 千二百七
 ○ 阿爾交 千三百
 ○ 顯理七世 千三百
 ○ 查理斯四世 千三百
 五十六年

小酔き醒ぬ
 此カ斯本の湊より遥
 放ちて北の方敷に
 此小者方は小見家
 小前名

○シラスモンド 千四百
年

○阿爾斐二世 千四百
八十年

○マキシミリアン 千四百
九十年

○查理斯五世 千五百
九年

兼西班牙王

○非耳難多二世 先帝ノ
弟

○マキシミリアン二世

○非耳難多二世 千六百
四十年

此代舊新西教並

び行ゆる、の和

え高波を乗越く。

萬里の旅ヲ利を計

子國を富よる和業

の都ハ海牙又の府を。

安特提全國乃大別

熱計僅少く四百萬

ふそそ是くされおそ亞

細亞印度の海を

數箇所保ちて艦を

をかつ出張の領多し。

議と結び維士發
里小於て各國大
集會

○レフポルト帝 千六百八
十三年

○查理斯六世 千七百
年

○馬里德黎散 帝

○查理斯七世 千七百
年

○法朗士一世

○法朗士二世 千八百
年

此代佛國拿破崙

一世帝の爲小屢
破ら且和議と
講むの後に彼
威を制せらる
日耳曼帝の位を
廢止爾後墓地利
帝と稱せり
○普魯西プロイス
政體君民共治
普國ハ日耳曼列國

國民清きを好む
體壯健り潔く文
字子醫學子舶大工徳子
の器械や織物その他
國々は均方とあり

の中巴即丁侯侯何
痕索勒名其祖先
り千四百年間日耳
曼帝シスモンド
帝の封を所かり
久しく列侯の内小
在り一が非理特維
廉の時教法改革の
乱小因て更小其領
地を擴む千七百年

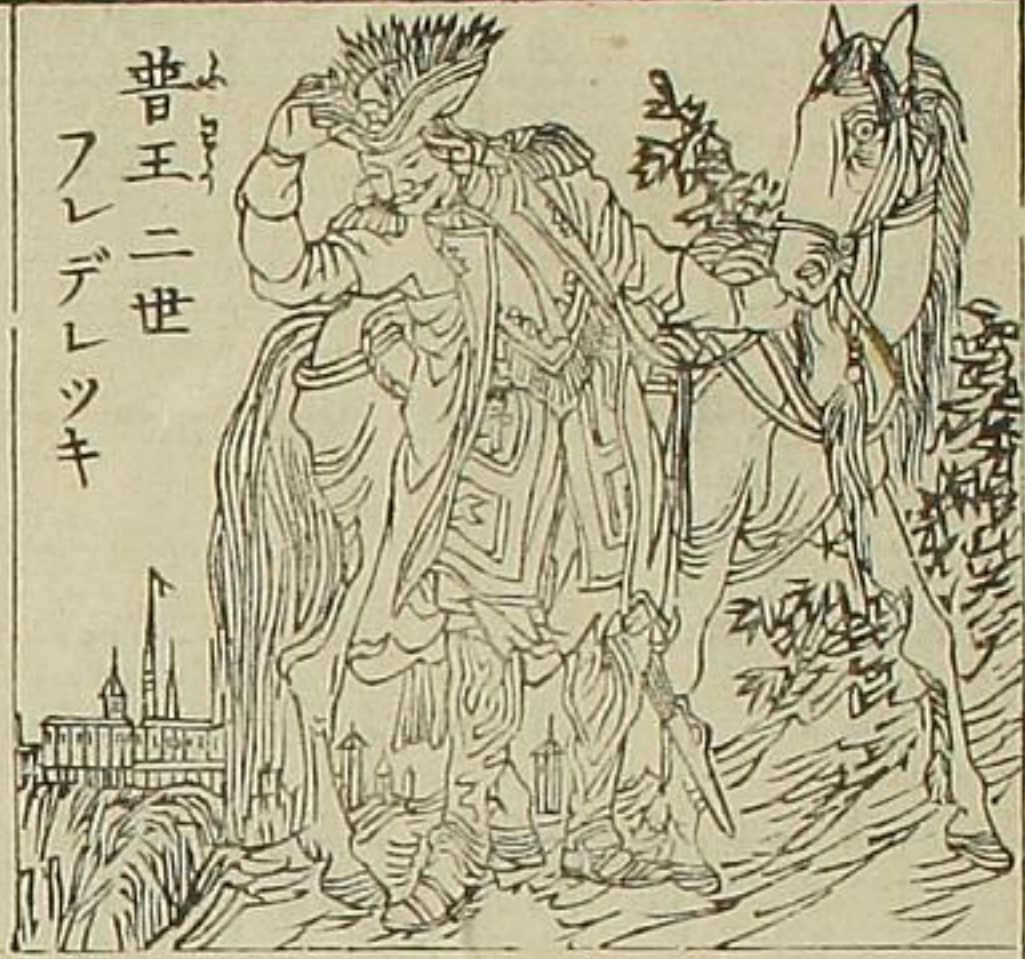
南に隣る白身義を
元和蘭の分を國出店
ありしを獨立する國
旗を揚ぐ王見之勢乃
数の品物細工物多き

代其子菲哩特一世
 小至り終小玉國と
 あり嗣で菲哩特二
 世父祖小勝きて文
 武兼備の英名一世
 小輝き終小歐洲強
 國の一と称せらる
 馬里德黎散女子小
 して填國の位を踐
 む小當り填國を撃

其土地の能道り。勤
 るあるも支配人手
 代小者より至るまで
 游惰くくくまこと我
 なき。君民共治鬼

西里西と攻取り又
 歐洲各國の大兵と
 七年の間連戦して
 終小尺寸の領地を
 縮む事なく和儀
 と講ぶる小至り
 千七百九十五年波
 蘭國の乱る小當
 り填國魯西並の兩
 國と共ゆ之を以て

外笑ふ門より輻輳の
 不魯捨拉斯と水次
 の府城も恩活畢全
 國地勢平く南界
 其ををを候



三分一と各領地を
増加より千八百年
代の始の普國佛帝
拿破崙の爲に敗軍
一領地大半を失ふ

温和より穀物菓樹の
実よく熟し港河海
縦横ふ交へ舟を街
衢る。将基の盤石十
字教宗門帰依え

ひしが佛帝魯國に
大敗するに當りて
各國と共に兵を起
して佛軍を破り奧
都維也納に於て大
會議の節舊領復そ
るを得たり近代普
國更に富強ゆして
文武其盛りと極め
此期に當り宰相

盛なる昔を記す連
國都より本海陸者
沿革古今の擾乱ふ
多く領地を失へる
北より近傍海中の

トビスマルク日耳
曼を混一すべき機
會を洞有し千八百
六十六年以太利と
相結びて日耳曼各
邦を平げ終に盡く
壞國の大軍を打破
り勢ひ次第に各邦
と合併し終に佛蘭
西と異議を生じ和

此のうけく培ふ所。
小亞米理の南方と
西印度海峽と結。
居地は中北極と
間も近き偏境に結。

親破して兩國の大
戦争とあり普国全
勝を得て亞撒羅來
尼の地を佛國より
得たり千八百七十
一年漸く和儀に及
び普王兼て日耳曼
帝の位に登り南北
合併して遂に一大
國とあり

青藍國は土地を歲
の半途より白日少
く歳の中途を夜陰
あるまじく其名の
蓋あるもく双へ居る

○佛蘭西

政體合衆共治

此國上古ハ哥爾と名くる野民の地ハ和蘭及び日耳曼の西部と一部ハリ。グ羅馬の版圖ハ屬せシ。紀元千四百年前佛蘭哥と名くる民種來因河

黒白此石の象小

ぶべ。人民移小其

形状。材細く細小

小性。來紙く悪ある。

身。漢獵の業を

と渡りて邦土を拓

けり其酋長美羅威

の孫哥羅味全國を

平定せると以て始

祖の王と稱せ紀元

四百八十一年王都

を巴黎に定め更中

洋教を奉り法度と

立ち漸く開化中進

めり

務め玉に緒を繋

と我人の種数をある。

此地をさして古く

より言傳へしは尖

嶋嶺人玉を是あら

佛王世系

○哥羅味王 四百八十年

此後繼で王とる

者皆暗弱なり

王家の推衰ふ

○北比諾爾布力王

佛国の推臣加爾

禄馬徳の子紀元

七百五十一年王

位と禪り受く

正港を以て北討む。

友を以て歐土に瑞典挪

耳面と結ぶるを合

せしむるの法政を治む

る君乃て交代を回す

○查爾禄曼帝

先王の子此時四

隣と蠶食し廣大

の地と領せり昔

羅馬と除くの外

此の如き至大至

強の邦國と為る

者あらむ人民尊

んで大帝と稱せ

紀元八百年小在

例と志し終り来

都を以て篤恒城西府

小あるを以て基督亞尼

勝り方らぬ旅にひる

聖夫も功の物たり

○路易一世 一千七前

此時三大邦國と
みより即ち佛蘭
西以太利日耳曼
是あり

○查爾祿二世 八百八十四年

○巴黎侯ユーゲス

○查爾祿三世 九百二十九

○武額加頌多 九百八十七年

知る處乃文字の徳
小八る。學子校書院教
多あり。國民形體大
あらむ。心誠実なり。偽
らば。飾らむ。禮儀

嗣王數世此間
在り皆豪強あり

○查爾祿四世 千三百

○瓦羅義斯候 六非立

此年代英吉利王
義徳瓦三世佛國

小攻入り佛兵屢

敗績と

○約翰王 十三百五

英兵と戦ひて大

厚く。花より。精
繪を好む。健石
を。性あり。柳
耳。回。能。土。地。を。典。國
と。教。禮。衣。食。を。産。物。も。

敗一遂に擒みせ
らる

○加爾祿五世
此代英兵と掃以



考らざれば律法は
おあづらざるや
西に小島の教あり
を總て名づるや
祿法騰水に勢ひ

邦土と回復
を得たり

○加爾祿六世
此王暗弱ゆ

英兵の侵す
○查爾祿七世
英兵復攻寄る

小佛國を解し
皆英の蠶食

所とあらんと

湧く潮漲る濁卷え
楫とる舟を回復
鯨を愛を過ぬま
水に激す死する
と我小島意の拉は

る小勤王の兵民
間小起り英兵と
掃ひ全國舊小復

- 路易十一世
- 查爾祿八世
- 路易十二世
- 法郎士一世 千九百
- 查爾祿九世 十九年
- 此代千五百七十

雪候も四時り雪消
 ぐ冬そ氷の凝結ひ
 雪は山後り妙乃
 旗の獣皮冠皮裘雪
 車雪鞋と足捲り

- 二年教祖祭日の
- 曉巴理子於て新
- 教の徒と悉く暴
- 殺す
- 不爾奔公顯理 三
- 顯理四世 十六百
- 英俊大度あり
- 人望あり惜むべ
- 一暴徒の爲に暗
- 殺せらる

多くはよぶる快鹿を
 捕へる馬の背り代つ
 屠り肉を食ふ
 乳を絞る常小
 飲皮を衣り其筋ハ

○路易十三世

○路易十四世

千六百四十三年
位小即其在位七

十三年百事萃美

盛大と尽し富國

強兵奢侈を極む

○路易十五世 千七百

○路易十六世 千七百

國內大乱共和黨

弓弦とありて山嶽を
生業のあり他のも

あり

英吉利國を佛蘭
西と僅小海を隔く

蜂起して國王と

弑し貴族僧侶と

屠り歴代未曾有

の暴戾と極め激

徒終に政權を握

り合衆政治とを

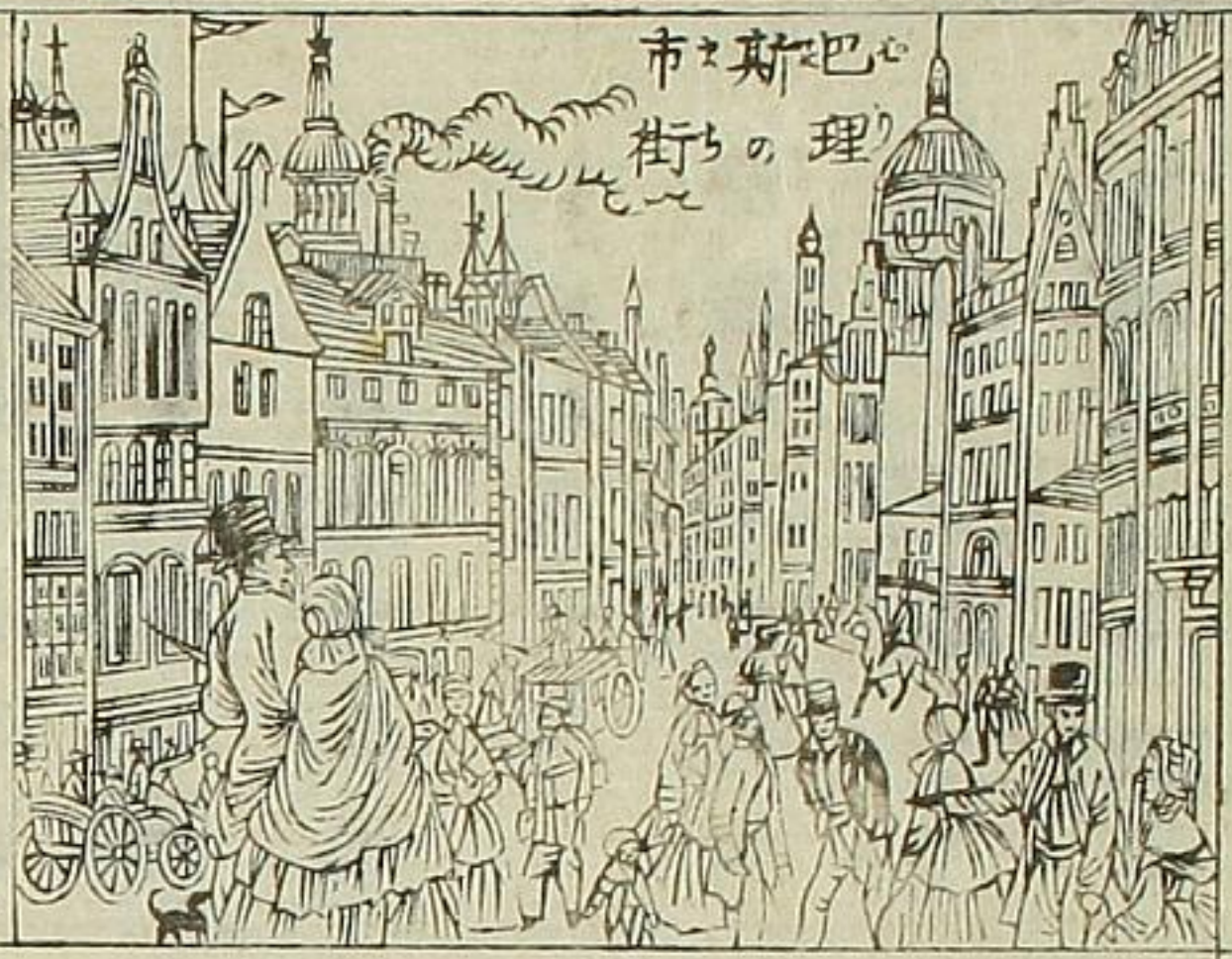
○拿破崙第一世

卑賤より出千古

無双の英材と以

て佛國の帝位を

多る此國をより五
大洲大洋洲の果ま
ぶる領地ありざる
處あり交易を以て
國をありて富強兵



昇り兵威強盛殆
と歐洲の大半と
属し各国之を懼
るゝこと虎の如

軍艦を數ぞ千艘
萬代を浪り颯々
檣を地球の軸と喻
あん三土より分つ大砲
の英吉蘇各愛蘭を

く従つて全洲と
混一せんとする
小至り魯國の侵
入して大敗せし
より勢ひ折け各
國の連兵と戦ひ
遁して巴黎に入
る列國踵いて之
と圍と合議して
拿破崙を地中海

合勢稱えく大貌
烈顛又英吉利と名
つけたる人口凡三子
萬居地は民を合算
是も二億萬の解

のエルバ嶋に配
先王の弟と立
て路易十八世と
名く時中千八百
十四年より此盟
年の春に至り拿
破崙潛ふエルバ
嶋と道と出て忽
ち兵と集め直ち
小巴黎に逼り國

あり。深き其智
の海乃屋号を以
きぬ千方に新費
の沖を越え格物究
理天地を。波濤の靈

王を逐ひ再び帝
位を昇ると雖も
列國の大軍之
向ふ佛軍終に敗
走を各兵再び巴
黎に攻入り終に
佛帝の位を廢し
遠く亞非理加の
孤嶋三厄里那に
流し再び路易十

縮む。外より
思ふ。斯やらん全
國首都の倫敦府。
その好む乃系状
る世界第一家並の

世界地理 卷三 〇廿九

八世の位を復し
漸やく兵と解ゆ
至り



三階五層建列
街ふ密に音あそ
路次乃通ひも廣
やのち新端と
傳ふ傳信機成柳

○路易十八世

○查理斯十世

○路易非立

○路易拿破崙三世

拿破崙一世の甥
子として先王の代
騷乱に因て合衆
政治の大統領と
あり後人民の投票
を以て終つて帝

引車は日此眺めん
斯とて入る年々
鐵道は直路を東ぬ
く走る蒸気車あり
空を飛連るも序が

位に登り非常の
 英材を以て國威
 を輝く一兵刀を
 以て境界を東に
 廣め強盛殊ど歐
 洲の盟主たるが
 如く然るに普國
 と不和の議を生
 じ戦ひて利あく
 終に將卒と共に

乃秋の風情をさるる
 只八船あきさるる出艦
 あ里難今一鳴ら
 まを發煩のさるる
 えー坦米斯の河ふ

普軍の降きよ
 り本國合衆政治
 と建ち地を裂き
 償金を出して普
 國と和議と講む
 于時一千八百七
 十一年正月八日
 あり
 ○英吉利大ブリタニヤ
 政體君民共治

扱さるる長橋のほ来
 自在に終夜尾形
 の燈火町ふ耀き
 渡る不夜城の宮殿
 櫻園仕懸乃盛りを

此國ハ大西洋北部
 の東隅ニ在ルニ大
 嶋あり上古の土人
 とブリトンと名く
 故ハ大貌利顛とも
 云羅馬の總督セサ
 ルの時始テ此國を
 征一次に羅馬の属
 國とあり後數百年
 と經テ羅馬の勢ハ

覽ふ庭園小葉意を
 百花の奥深き林小
 繁る春の葉影友の
 霞の流氷めど
 到る末路千海

衰へ一此歐羅巴各
 國の居民大ハ住
 ひと處々ハ遷一獨
 逸より移り一民土
 人と平げ土地を領
 一次第ハ分きて數
 多の諸侯と為まり
 紀元八百二十七年
 小至り七諸侯の内
 一ハエセキハ始めて

千八江と交り
 易きそ日より新
 心よ并く
 新多知識の道
 の情れ其自然

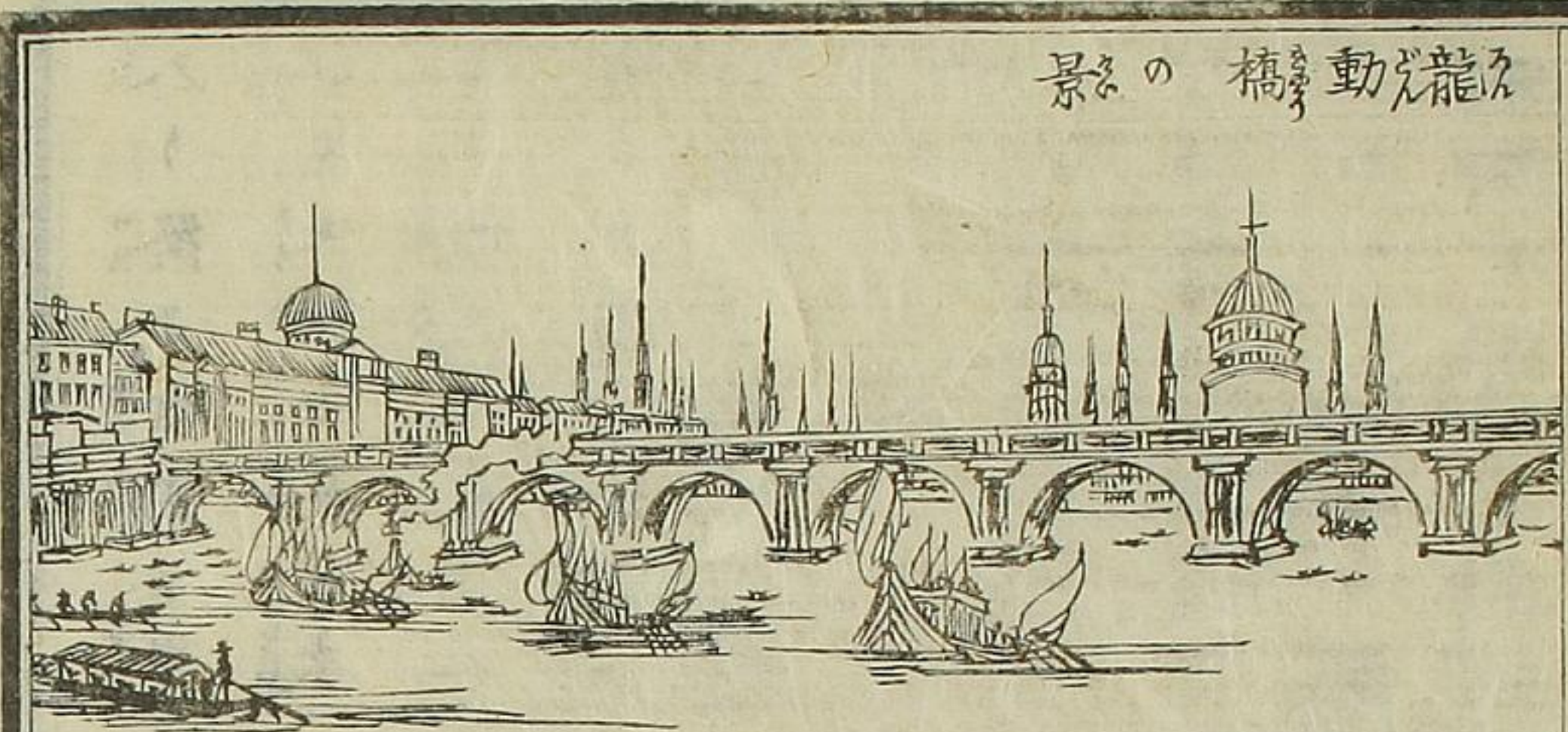
国内と一統と其後
 連国人の土地を奪
 其領地を歸せり
 故の国王の子エド
 ワルド王位を昇り
 かど威令国内を加
 ふること能む千六
 十六年佛蘭西の諾
 曼的を領せしカ
 ルレム候此國を攻

と廣死狗に中
 之情く活計乃大
 利千あらしき治風
 を凌ぎて走る蓋
 氣如君と民也法

入り終る全國を平
 び王位を昇る夫
 りの教代を經千二
 百十五年の此國法
 を改革し王権を擅
 小とらを得ざら
 此是君民共治後世
 の國法とありぬエ
 ドワルド三世の時
 佛國を政入り其全

天子令治國
 乃政事四海見牙
 表裏極るる君之
 少中

龍動橋の景



國を平定せんとして前後九十餘年屢佛兵を
 破りといへどもへたり六世の内乱に因
 り盡く佛國の領地を失へり後數代を經て
 千五百五十八年女王エリサベス賢明ふし
 て航海貿易海軍を盛んおし海外の属國頗
 る増加せり千七百七十六年「ジョージ三世
 の暴政ふより」亞米理加洲の領地背て合衆
 國とある今代の女王「ヴィクトリヤ」支那を
 攻て彼領地を得り其版圖其富強世界中
 小冠たり

明治五年壬申仲夏

回春樓藏

著述

假名垣魯文

浄書

澤菱潭

首書

平田思成

古今事考

卷三

畫工 惺々曉齋

彫工 村橋昌三郎

東京本石町二丁目角

萬笈閣 江島喜兵衛發兌

東京書肆 萬笈閣 本石町二丁目角 枕屋喜兵衛製本書目

繪入世界都路 假名垣魯文著 全六冊

地球六大洲各國の事情都府の景状名所舊跡等を挙て我國従来の都路紀行に倣ひて綴り射載雅俗を混交し童蒙婦女を以て萬國の形勢を知らせしむるに小饒きんこを要し首頭書の繡像を加へる一大新書あり

地學圖解 鷺巣清廉譯 近刻 繪入全三冊
此書の地球の總論と始と各國地形の大小氣候の遷速都鄙の盛衰物産の多寡動植の種類に至る逆緯毫漏と處ろあく坐して万里の遠邦を看臥し國体の可否を察し机上に惑星ヲ載テ開化の通と論むるに足る實方今必用ノ書ナリ

出版目錄

萬笈閣

開知新編 橋爪貫一譯

繪圖入 全八冊

快入 二冊

文明開化ト稱スルハ何ゾヤ先開知ノ一端ヲモテ緒トス格物ノ開
知ハ人道ノ大基本ニシテ理學ニアリ此書ハ童蒙ヲシテ開知ノ要ヲ
示ス但シ讀易スク諭シ安キヲ專ラトシ地球上ノ事體普ク纂録
シテ童兒ノ知識ヲ開カントスルノ急務ヲ報知セリ

西洋水利新說 若山儀一譯

圖入 全二冊

同附錄

全一冊

此書ハ農業集成及ビ諸西哲ノ原書ヲ參譯スル者ニシテ水利ノ原
由水濕ノ度ヲ檢察シ土地ノ高低ニヨリテ水生ノ涌出スルヲ理シ或ハ
濕地山地雜和ナシ土質粘地金石礦穴等ノ水ヲ疏通スルノ術ヲ示シ
溝渠ノ種類及泄水器具等ヲ説タル農家要務ノ宝書ナリ

東京書肆

萬笈閣

本石町二丁目角 枕屋喜兵衛製本書目

繪入 世界都路

假名垣魯文著

全六冊

地球上六大洲各國の事情都府の景状名所舊跡等を挙て我
國従来の都路紀行に倣ひて綴り、舩載雅俗を混交し童蒙婦
女を以て萬國の形勢を知らせしむるに飽きざらんことを要し、首
書に繡像を加へたる一大新書あり

地學圖解

鷺巢清廉譯

近刻

繪入 全三冊

此書ハ地球の總論と始り各國地形の大小氣候の遲速都
鄙の盛衰物産の多寡動植の種類に至る迄悉く漏らさず
坐して万里の遠邦を有即して國体の可否を察し机上に感星
ヲ載テ開化の通と論を多し足る實ハ必用ノ書ナリ

出版目錄

萬笈閣

開知新編 橋爪貫一譯

繪圖入 全八冊

同 薄用 榻

快入 二冊

文明開化ト稱スルハ何ゾヤ先開知ノ一端ヲモテ緒トス格物ノ開
知ハ人道ノ大基本ニシテ理學ニアリ此書ハ童蒙ヲシテ開知ノ要ヲ
示ス但シ讀易スク諭シ安キヲ專ラトシ地球上ノ事體普ク纂録
シテ童児ノ知識ヲ開カントスルノ急務ヲ報知セリ

西洋水利新説 若山儀一譯

圖入 全二冊

同 附 録

全 一冊

此書ハ農業集成及ビ諸西哲ノ原書ヲ參譯スル者ニシテ水利ノ原
由水濕ノ度ヲ檢察シ土地ノ高低ニヨリテ水生ノ涌出スルヲ理シ或ハ
濕地山地雜和ナシ土質粘地金石鑛穴等ノ水ヲ疏通スルノ術ヲ示シ
溝渠ノ種類及泄水器具等ヲ説タル農家要務ノ寶書ナリ

西洋航海新説

中井櫻州著

全二冊

此書ハ坐シテ大洋中ニ在ガ如ク星纏風土氣候ノ變ヨリ政事民俗
器械物産等ニ至ルマデ海外各國ノ事情ニ於テ細大漏サズ且彼地ヲ
目撃スルガ如ク實ニ開知ノ最大奇書ナリ

東洋史略

岡田輔年著

全二冊

此書ハ東洋ノ新世界北亞米利カ合衆國富強繁盛ノ今日ニ至ルノ事業後ニ其部中
風土物産學才貿易政體軍備全整ナルヲ悉ク原書中ヨリ採卒キ其記文
符畧ニ過タリト雖摘要タル大関目更ニ條飾數々ノ類書ニ勝レルヲ遠シ

農家必讀

大藏永常著

全三冊

此書ハ近世農學家大藏老人多年經驗耕作ノ實地ニ淑リ田圃倍養ノ
精粗ヲ撰ビ豊凶ニ因リテ注意セシムルノ寶鑑タリ凡我國土ニ耕ス者先
此書ニ眼ヲ下テ以テ耕作ノ心ヲ用ハ其益一粒万倍ノ功ヲ奏セルモ又難カラズト爲ベシ

西國立志編

中村敬太郎譯

全十二冊

自由之理

中村敬太郎譯

全六冊

天然
人造
道理圖解

田中大助著

繪入
全三冊

窮理隱語

清原道彦著

全二冊

此書ハ手どりぬ窮理の問答もけし隠語とあり一画圖を加ふ
訓蒙のたそふ作らるゝ親説ある要書あり

窮理智環

清原道彦著

全三冊

此の書ハ窮理の大畧を括論して圖を加へ且行草より大字に書し
兒童の誦讀ハ勿論習字の一助とあを書あり

化學原論

渡邊越太郎譯

繪圖入
全三冊

通俗窮理の吐

全五冊

此書ハ手近き西洋窮理と平假名繪入あり
なごゝ童蒙婦女子に分解安んずるのんが爲に著せし書なり

數學入門

橋爪貫一譯

全八冊

一ノ卷 加減乗除 二ノ卷 分數及小数 三ノ卷 比例法
四ノ卷 関平関立 五ノ卷 對數 近刻 六ノ卷 天算上 近刻
七ノ卷 天算中 近刻 八ノ卷 天算下 近刻

此書ハ洋算ノ階梯ニシテ我國算ヲ了解セザル者ト雖モ此書ニ
因リテ學ブトキハ其大略ヲ得ルニ至レリ曾テ國算ト彼我ノ區別
アルモ道ヲ得ル時ハ同一ナリ洋算ノ難易ハ此書ヲ披テ推知ベシ

改度量考摘要

橋爪貫一譯

全一冊

此書ハ我彼内外ノ度量ヲ比較シテ專ラ商法ノ便利ヲ示シム都テ度量
立積長短ノ比位ハ高個ノ急務タルヲ讀スニバ有ベカラズ

英語箋

石橋政方先生譯

全二冊

此書崎陽石橋先生英人ト對話多年經驗日要急務ノ語箋ニシテ語
學ノ初心必讀大易有用ノ物ト云ベシ

全改正増補

便靜居主人校訂

全二冊

此書ハ石橋先生ノ先キニシテ大江ガ初學ニ便シシラ今度鳥氏ノ増補ニ
伏テ猶有益ノ書取レリ且巻尾ニ萬國ノ地名箋及ヒ詞早々區別表ヲモ附シタル
ハ化屍ノ活世ノ童子輩分能モ坐右ヲ缺ベカラス普ク買ニ見タマナリ

和譯英吉利小字典

一名小辭書
青水輔清譯

近刻

全一冊

此書其實ハ洋土歴史中ニ關係セル英語ニ添ヘテ和譯セシ小字書ナリ
抑歴史文ハ綴字微意アルガ故ニ生徒是ニ悩メリ故ニ此書ニ因リテ彼
史ヲ學ババ教師傍ララ去ルニ同ジトセン

横文字早指南

全一冊

此ノ模範ハ我童蒙等ノ俗ニ清書草紙ト号クル者ノ如ク綴本中江洋字ヲ白字ニ刻シ真草行ヲ分テリ初學洋字ヲ習ハント爲ニ此模本ノ上ニ白紙ヲ覆ヒテ模寫セハ其筆法ヲ得ルモ又速ナリ

英字三體國畫 稿瓜貫一著

全一冊

全 名 頭

全

全 苗字盡

全

此三書ハ我國ノ地名苗字等ヲ洋字ニ當テ片假名ヲ添ヘ我彼通倍ノ一助トス内外郵便必用ノ者ニシテ異人取引ノ商家貯エズンバ有ルベカラズ

英學教授

全一冊

此ノ書僅ニ二卷ニ過ザルノ小冊ト雖ドモ贅ヲ省キ樞要タルヲ譯セバ初學ノ階梯是ニ因リテ足レリト爲ベシ

英語 綴字書

一名スペーリング

全一冊

同ニ編 三編 近刻

此ノ書ハ英學ノ學師ウエブストル著述ニシテ文字ノ綴方音節ノ變化ヲ知シムルノ書ナリ

英文典字類

格賢勃斯氏
西先生原本

全二冊

英學捷經

阿部米象譯

近刻

全一冊

英吉利 獨逸 和玉篇

西村周次郎譯
中村順一郎譯

近刻

全一冊

英獨逸ノ兩學ハ今日ノ急務ニシテ學バズンバ有ベカラズ此書兩國ノ終
字ニ和譯ヲ添エ部ヲ十三門ニ別チタル三體ノ節用ナリ

普語箋

一名獨逸語箋
中村雄吉譯

全二冊

ガ今獨逸學日耳曼列國ヨリ西洋諸邦ニ行ハレ殆ド英學ニ併立
セントス此書ハ普國急務ノ語學ニ和訓ヲ施シ初學專問ノ摸
範トセリ生徒常ニ傍ラテ退ケザルノ要書ト云ベシ

獨逸單語編

春風社中著

全一冊

獨逸單語篇和解

中村順一郎譯

全二冊

此和解書ハ獨逸單語編ノ原書ヲ基本トシ是ニ押譯ヲ加ヘタル
初學階梯ノ導ビキナリ師ニ屬キ學ブニ易キヲ旨トセシム

同會話集成

西村周次郎譯
中村順一郎譯

全二冊

獨逸語學對客ノ專ラ是トスルノ會話ヲ集メ悉ク和譯ヲ加エ語
學ヲ要トスル人ノ為ニ物セルノ書是ニ比スルハナシ

同階梯

中村雄吉譯

近刻全一冊

歐洲ノリイドルハ彼國訓蒙ノ緒ニシテ方今我國ノ婦童專問ト
スル所ナリ則チ此書真草ノ綴字ニ畫圖ヲ添タル初學ノ阜業ナリ

獨逸文典字類

春風社中譯

全一冊

同 文典直譯

カトリ氏原本
中村雄吉譯

全二冊

同 熟語集

大熊春吉譯
宮口祐平譯

全一冊

和譯獨逸字典

明石志津廣譯
明石雄七譯
河村省三郎譯

全一冊

西洋料理通

假名垣魯文編輯

全二冊

此書ハ横濱在留の英國コックの手記ヨリ原本世ハ稀アリ卷中
彼土の食料製方の原因と挙煮汁と三等ハ區別而テ肉類野菜
至るまで塩梅加減と経験より西洋郵賣家必讀の珍書あり

萬國航海 西洋膝栗毛

假名垣魯文著

中本十五編揃 全廿冊

同 拾遺

近刻

此釋史の三世の弥次郎北八等が横濱在住の事情と發端と
通商の附属英佛の蒸氣飛脚船に乗組而テ航海の途中支那
印度の地の例の滑稽と盡そ笑語専ら目今の流行を穿らた
新奇妙案の戯作あり

西洋器會

假名垣魯文著

近刻 全五冊

此小説ハ故曲亭馬琴ガ質屋ノ庫トヘル読本の類ニ倣ヒ横濱の押原
歐羅巴諸州の器械衣類異形の物集會りて人語を設一各国船上を語り國
休事情を演と以趣向ト編章戯文と綴と雖確實樞要を注意一童蒙と
開化進歩せしむる方今風の滑稽辨史あり 看客發見の期を待て笑覽を希ふ

河童胡瓜遺

假名垣魯文著

全二冊

福澤先生の窮理圖解の傲ひ被標目を假て一部の趣向と当世の事情と穿らる。抱腹絶倒の滑稽書あり然と其實の教諭の一端は出たり

窮理外傳

風来山人遺稿
假名垣魯文校閱

合本 全一冊

此書の風来先生の遺稿中にて往時の舊作と假名工の筆頭九十餘年の現今の叛せを其事戯中の戯にして又實中實の渉ると稱せん

雜談安愚樂鍋

假名垣魯文著

全三冊

當世流行の牛肉店中貴賤雅俗滋味を食する小臨を江湖上の新聞と語り奇談と會するの滑稽能人情世態の涉り笑話頗る意表に出す宛と穿らる百尺の深きと探る作者が得意の戯述なり

知新館藏板目錄

理學初歩

翻刻

前後

三冊

英和字典

知新館社文同譯

全一冊

此書ハ英人ニユツル氏ノ字典ノ本トシ傍ウエフストル氏ノ大字典ニ就キ發聲ノ調符ヲ表シ勢テ應用ニ切ナルノ語ヲ譯出シ且翻譯ニ後事スルノ人ヲシテ搜字ニ便ナラシメンガ為英漢字典ノ譯字ヲモ採用シ大ニ進歩ノ裨益ヲ得セシム加シ他ノ對譯字書中比スレバ原語譯字ノ數最モ多シト雖モ字體精密ナルヲ以テ諸數ノ繁ヲ省キ製本ノ體裁西洋ニ倣フ以テ提携ノ勞ナク實ニ對譯書中ノ巨擘ト云ヘシ

西洋易知録

河津編輯助祐之先生譯述

各二冊

後第一帙至四帙 出板

五帙ヨリハ帙マデ 近刻

此書ハ西洋各國歴代ノ沿革興廢ヲ記シ傍政体ノ得失ヲ述タル物ニテ
彼ノ事情ニ通知セント欲スル人ハ必ス座右ニ可備ノ珍書ナリ

英國史略

河津編輯助祐之先生譯述

初編 全二冊

同

作樂戸癡鶯先生譯述

二編 全二冊

此書ハ英國歴代ノ事情ヲ述タル物ニテ河津祐之先生ニ西洋易知録ノ
譯アレドモ其原書ニ英國ノ事情ヲ載サレバ曾テチヤブルハドウイニ西氏ノ
著書ニ就要領ヲ譯出シ其遺漏ヲ拾補スサレバ易知録ト並セ見ルベキ書ナリ

西俗一覽

河津編輯助祐之先生譯述

全一冊

此書ハ西洋各國ノ人情風俗身体衣服書通談話往来
會食婚禮葬禮等々ノ一覽ノ下ニ通知スベ
クシ珍書ナリ

海外政談

近刻

西洋英傑傳

作樂戸癡鶯譯編
河津祐之校正

全六冊

出村目録

亭漏生國史

迄刻

東京書肆

水石町二丁目

江島喜兵衛梓

大日本

書肆

下総佐原町
 下野宇都宮
 信州善光寺
 駿州沼津上五町
 駿州静岡七間町
 駿州静岡江川町
 遠州濱松連雀町
 勢州津比町
 尾州名古屋本町七丁目
 尾州名古屋本町十一丁目
 尾州名古屋本町三丁目
 尾州名古屋本町八丁目

正文堂利兵衛
 菟物屋伊右衛門
 小辨屋喜太郎
 水屋浦吉
 須原屋善藏
 水屋市藏
 伊勢屋清七
 水屋佐兵衛
 永樂屋東四郎
 萬屋東平
 菱屋藤兵衛
 菱屋平兵衛

萬葉集

大日本

書肆

西京三條通り塚町西入
西京寺町通り松原上ル
西京三條通東洞院上ル
西京四條通り寺町上ル
大坂心齋橋南壹町目
大坂心齋橋通安堂寺町
大坂心齋橋筋北久太郎町
大坂心齋橋筋安土町南入
大坂心齋橋筋博勞町
大坂心齋橋筋北空寺町
大坂心齋橋筋備後早
大坂心齋橋筋南空寺町

出雲寺文治郎
勝村治右衛門
村上勘兵衛
田中屋治兵衛
敦賀屋九兵衛
秋田屋太右衛門
河内屋喜兵衛
河内屋和
河内屋茂兵衛
河内屋源七郎
近江屋平
伊丹屋善兵衛

大日本

書肆

東京日本橋通一町目
東京日本橋通二町目
東京日本橋通三町目
東京芝神明前
東京芝神明前
東京芝神明前
東京室町二丁目
東京大傳馬町一丁目
東京横山町一丁目
東京横山町三丁目
東京浅草茅町三丁目
東京本石町三丁目

須原屋茂兵衛
山城屋佐兵衛
小林新兵衛
岡田屋嘉兵衛
和泉屋吉兵衛
和泉屋市兵衛
紀伊國屋源兵衛
三家村佐平
出雲寺萬治郎
和泉屋金右衛門
須原屋伊八
梶屋喜兵衛

